

ローイング競技リハーサル大会会場設営・撤去等業務委託 特記仕様書（水上）

No.	名称	仕様・規格	特記事項
1	コース設備	コース	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公益社団法人日本ローイング協会ボートコース規格規則に基づくB級公認コース対応のコースとする。</li> <li>・ボートコースは1000mコースとする。</li> <li>・競技レーンは、5レーン（レーン幅12.5m）</li> <li>・外境レーンは、2レーン（レーン幅5m以上）とする。</li> <li>・コース配置位置の最終決定測量は実施していないため、水深が取れる箇所へ各判定ラインを測量した上で設置すること。</li> <li>・コース設置に関しては浅瀬箇所や敷地の占有もあるため、水中アンカー方式での設置を行うこと。</li> </ul>
		ワイヤー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワイヤーはφ4mm程度のメンテナンスが容易なワイヤーを使用すること。また海水域のため、金属製ではなく、樹脂製ワイヤーを使用すること。</li> <li>・ワイヤーの材質、施工方法は各メーカーの特許システムがあるため、特許侵害等無いよう調査した上で選定すること。</li> </ul>
		ブイ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・艇やオールに損傷を与えるおそれのない、柔軟な材質とする。</li> <li>・コース境界ブイは赤色及び黄色のφ150以下とする。</li> <li>・レーンブイは0mと1000mには設置しないで1005mに設置する。</li> <li>・各レーンには250m毎に色の異なるブイ（赤）を設置する。</li> <li>・ゴールフラッグブイは、ゴールライン後方5m地点の外境用ワイヤーに設置する。</li> <li>・距離表示板として、一边を1mとする立方体の大型ブイ（側面4面に発艇線を0として発艇線からの距離を明記する。250m、500m、750m各2個）をアンカー固定にて水上へ設置する。</li> </ul>
		練習コース	<ul style="list-style-type: none"> <li>・練習コースは400mコースを5レーン設置する。練習コース設置箇所付近は浅瀬の部分もあるため設置箇所が限られてくる。そのため、本コース同様、水中アンカー工法にて設置を行うこと。</li> <li>・ブイのサイズは200mm程度とし、コース境界ブイと区別する。</li> </ul>
		区域境界	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水域が広いので発注者や自衛隊の要望があった場所へ区域境界ワイヤーやブイを設置する。こちらも浅瀬や立入禁止箇所を明示するために設置するため、設置箇所が限られてくる。そのため、こちらの設置も陸上からワイヤーを固定せずに水中アンカー工法で設置すること。</li> <li>・区域境界ワイヤーは1500～2000m φ400mm程度のブイを50m間隔設置できる程度準備しておくこと。</li> </ul>
		ステアリングマーカー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スタートライン後方にコース境界ブイを5m～10m間隔で5個以上設置し、代用する。</li> </ul>

ローイング競技リハーサル大会会場設営・撤去等業務委託 特記仕様書（水上）

No.	名称	仕様・規格	特記事項
2	発艇審判台		<ul style="list-style-type: none"> <li>・全レーンの中心線の延長線上で、発艇線より後方約 40～50m付近の位置に設置する。</li> <li>・テーブル、椅子等の必要備品も準備する。</li> <li>・屋外用防水時計（φ500 以上）を、前面及び練習水域方面に各 1 個設置する。</li> <li>・レース表示板を前面及び練習水域方面に各 1 セット設置する（中の表示板も準備する）。</li> <li>・前面側の審判席中央部に、記入用の台を取り付ける。（兼プログラム等確認用）</li> <li>・浮桟橋に設置し、アンカーにて固定する。その場合アンカー及びアンカーロープ等がコースワイヤー関係に干渉しないように設置する。</li> <li>・構造上風を受けやすく、また地盤が法面である可能性もある為、アンカーの数及び重量を強化するなど、設置には充分注意する。</li> <li>・仮設トイレ（簡易水洗い式トイレ）1 基を設置すること。</li> </ul>
3	ランドマーク		<ul style="list-style-type: none"> <li>・リハ大会時は設置箇所付近の護岸工事のため設置できないため不要である。</li> </ul>
4	発艇補助台 （ステッキボート）		<ul style="list-style-type: none"> <li>・競技レーンの 5 艇分用意すること。</li> <li>・迅速かつ容易に前後に作動する機能を有すること。</li> <li>・艇首を正しく発艇線上に並べ得るように施工する。</li> <li>・固定は水中アンカー等で行い、コースレーン等に、影響を与えない構造とする。なお、地質が軟弱のため、強固なアンカー強度を確保する。</li> <li>・風や波の影響を受けても常にレーンの中心に位置する構造とする。</li> </ul>
5	各判定席		<ul style="list-style-type: none"> <li>・各判定ラインにおいては判定ラインが常設にて確定していないので、大会前までに判定ライン位置測量を実施すること。こちらはコース規則を満足する位置で日本ローイング協会に確認を行い、設置すること。また測量鉾は常設設置できない箇所もあるため、仮設で設置を行うが簡単に外れないような処置を行うこと。</li> <li>・線審席は対岸までの距離が遠いため、審判視準用の予備としてカメラ、モニターを用意すること。カメラ、モニターに関しては屋外使用のため防水仕様とする。こちらでも使用するカメラ、モニターは過去国スポ使用実績があるものでかつ、日本ローイング協会に動作確認を受けて合格したものを使用すること。</li> <li>・中間判定席は既存フェンスより高い位置にカメラを設置し、モニターで判定できるようにすること。ワイヤー台もそれに合わせること。</li> <li>・フィニッシュ判定席は階段式とし、ワイヤー台ともに揺れが伝わらないような構造とすること。</li> </ul>
6	カメラタワー		<ul style="list-style-type: none"> <li>・カメラタワーは、仮設組立式とし、決勝線延長線上に設置する。また、フィニッシュ判定席と独立した安全な構造とし、全レーンを視認可能な高さ、位置で設置する・この時に転倒防止策などを強化する。</li> </ul>
7	見通し板		<ul style="list-style-type: none"> <li>・フィニッシュ箇所に関しては陸上へ2.0m×4.0mタイプを設置する。他箇所に関しては対岸までが遠いため、今回のリハ大会フィニッシュ箇所での視準状況を参考とし、本大会では反映させる。</li> <li>・フィニッシュ含む判定用として水上見通し板を3基(0m, 500m, 1000m)水上へ設置する。見通し板の揺れを抑えるために使用する桟橋は4m×4mで厚み60cmタイプのものを使用すること。水上見通し板に関しては、ポール、トータルステーションでの調整を実施したうえでないと公認検査を合格しないため、受注者は施工方法、調整方法に関しては日本ローイング協会に確認のもと設置を行うこと。</li> </ul>

ローイング競技リハーサル大会会場設営・撤去等業務委託 特記仕様書（水上）

No.	名称	仕様・規格	特記事項
8	出艇帰艇棧橋等		<p>ア) 出艇棧橋</p> <p>H300 4m×24m 1セット（選手乗降用）</p> <p>H600 4m×12m 1セット（渡り橋支え用）</p> <p>アルミ製渡り橋 1.5m×12m</p> <p>渡り固定金具(既設地盤への影響が無いような施工方法)</p> <p>※渡り橋に関しては、上記幅と長さで協会より許可を頂いているため、他の仕様で提案する場合はこちらより大きい幅、長さのもので提案すること。</p> <p>イ) 帰艇棧橋</p> <p>H300 4m×24m 1セット（選手乗降用）</p> <p>H300 4m×40m 1セット（選手通路用）</p> <p>アルミ製渡り橋 1.8m×4m</p> <p>ウ) ボートホルダー用棧橋</p> <p>H300 2m×30m 1セット（ボートホルダー乗降用）</p> <p>アルミ製渡り橋(通行用)</p> <p>エ) 緊急・修理用棧橋</p> <p>H300 2m×12m 1セット（発艇台棧橋に取付け）</p> <p>オ) 審判用棧橋</p> <p>H300 4m×4m 1セット（既存階段箇所へ寄せる）</p> <p>H300 2m×50m 1セット（審判艇係留用）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・使用する浮桟橋は、安定性が良く、高さ300mm程度の艇が乗降しやすいものを使用する。</li> <li>・桟橋の固定は、アンカー及びアンカーロープにて行う。</li> <li>・材質は、艇が接岸した際、損傷を抑えるため樹脂製のものとし、更に防舷材を設置する。</li> <li>・桟橋の連結金具等の部分で選手が躓かないようフラットな仕様とすること。</li> </ul>
9	審判艇		<ul style="list-style-type: none"> <li>・カタマラン艇（全長7m程度、幅2m程度）4人乗り 3隻</li> <li>・エンジンは15馬力以上とし、4サイクルエンジンとすること。</li> <li>・借り上げる艇は点検を受け、厳密な管理のもとに置かれた艇とし、万一運行不能など故障が生じた時は、直ちに修理もしくは代替艇を手配する等必要な措置を講ずること。</li> <li>・審判艇に必要な燃料等は受注者が負担する。</li> <li>・競技会場内や水上での給油を行わないようにするため、1艇につき予備タンクを1個用意すること。</li> <li>・審判艇として競技に支障のない性能（旋回性・引き波の少ない・安全性）を備えた艇であること。</li> <li>・日本小型船舶検査機構の検査、登録がなされていること。契約後、決められた期間内にその写しを提出すること。</li> </ul>
10	安全管理		<ul style="list-style-type: none"> <li>・航行規則看板及び注意喚起看板を設置する。</li> </ul> <p>上記看板においては青森県ローイング協会、国スポ担当と打合せのもと内容を決定すること。</p>